

序文 千年太郎 Sennen Taro 2

企画

座談会 池袋書店今昔 書店文化の発信基地としての池袋 4

べんりな包装紙 辻井喬『彷徨の季節の中で』を読む  
萬澄十三 Masumi Juzo 30

「原画より絵葉書の方が良い」と言えるひと  
内田静枝=編『長沢節 伝説のファッション・イラストレーター』  
益岡和朗 Masuoka Kazuo 32

池袋にしみついてるもの 玉川重機 Tamagawa Shigeki 36

創作

プレタポルテ・リブロ 益岡和朗 Masuoka Kazuo 38

めかとり百貨店の客 萬澄十三 Masumi Juzo 48

品川汁 千年太郎 Sennen Taro 62

逆境を脱皮のチャンスに！ ビーゲン セン Bi-gen Sen 95

詩 ますく堂 Masukudo 98

## 序文

二〇一二年三月一日、東日本大震災が起き、約一万八五〇〇人が犠牲となった。この月、千年画廊が、池三商店街にひっそりと生まれた。そこが、池袋モンパルナスの発祥の地だなんてことは僕らは知らなかった。秋ごろだったか、商店街の会長さんが「池袋モンパルナスのイベントやってみようよ、参加してみない？」と紹介してくれた。だから、千年画廊がイベントに参加したのは翌二〇一二年からだ。

千年画廊はたくさんの方々の若手芸術家に利用していた。コンサートも講演会も、演劇も。とてもぜいたくな空間になった。手作りの芸術が目の前にある、なんて臨場感はなかなか味わえない。ただ、何かが足りない。僕は図画工作は二、音楽は三の通信簿だから、熱く語る芸術家たちに軽い嫉妬を感じていた。

そここうしているうちに、画廊の隣の居酒屋が空い

た。古い一枚板のカウンターが気に入った。一回だけ、三人のオッサンでカウンターに座って酒を飲んだ。実に、よい場所だった。今はまだ、居酒屋は開けないからと古書店ますく堂を誘致した。何しろ、スナックを居抜きで店舗にしていた古書店だから、居酒屋の居抜きでも問題ないだろうという予感は見事あつた。ビブリオな人々の流れは途切れなかった。その集まりには、画廊も使っていた。

芸術家と読書家はあまり融合しない。そう感じていたのだが、考えてみれば池袋モンパルナスの小熊秀雄は画家であり小説家・詩人だった。現代のモンパルナスに文学がないのはおかしい。そもそも書き手がいないければ、池袋モンパルナスは今に伝わらなかったはず。詩人でもある、ますく堂店主に同人誌を提案したら、即動いていただいた。電光石火「パルナツソス」という名前も頂戴した。わが嫉妬心も、創作欲に昇華しそうな気配だ。

去年、宇宙から降りそそぎ、物質も地球も簡単に通り抜けていくニュートリノに質量があることが、にわ

かに注目された。梶田隆章氏がノーベル物理学賞を受賞したからだ。この発見は、宇宙に我々が存在する理由を解くカギと言われている。とても気になる。人間はどうして生まれ、魂はどこから来てどこへ行くのか。パリ・モンパルナスの語源は、ギリシャのパルナツソス山に由来するという。パルナツソスは、詩、学問、文学の発祥の地。そこには酒神ディオニユース（バックス）も鎮座します。

同人よ、書こう。書いて書いて書きまくろうではないか。世界には物語があふれている。ノーベル賞をめざそう。我々の中から受賞者がでたら、ますく堂の一枚板のテーブルを本海から掘り起こし、大いに飲み、祝おうではないか。

二〇一六年一月八日 千年太郎